



# 「世界の高速炉開発」講演会

## Features of Fast Breeder Reactors

- Effectively utilizes the natural uranium (nearly 80 %)
- Consumes the depleted fuel discharged from thermal reactors
- Breeds more fissile material (plutonium) than consumed
- With a large number of thermal reactors operating and the limited available natural uranium would be consumed in a few centuries, with FBRs, energy supply can be ensured for centuries.
- FBR is important from waste management and environmental considerations.
- Burns actinides and long lived radioactive fission products. Generation of precious metals such as Co, Pd etc which have many important applications and can be extracted from its waste (wealth from waste).

Uncertainties in oil prices and available uranium resources bring FBR with closed fuel cycle to focus

### Energy Potential

|                     |               |
|---------------------|---------------|
| 1 kg of coal        | 3 kWh         |
| 1 kg of oil         | 4 kWh         |
| 1 kg of natural gas | 10 kWh        |
| 1 kg of U (thermal) | 24,000 kWh    |
| 1 kg of U (FBR)     | 5,000,000 kWh |

# つるかの四季



P.チェラパンディ氏  
(インド)

D.ハーン氏 (韓国)



望月弘保氏 (座長)



J.ブシャール氏 (フランス)



もんじゅについて報告する  
—宮正和氏 (原子力機構)

## 川口悦生 敦賀原子力事務所所長

文部科学省の敦賀原子力事務所は、地元の声を聞き、地元との良い関係を築こうと開設されています。川口悦生所長に話をうかがいました。

### 原子力は地元の理解が大前提

昨年8月に赴任されたとのことですね。

入省以来、半分くらいは原子力に係る仕事に携わってきました。福井にも仕事では来ていましたが、住むのは初めてです。こちらは原子力に対する理解が、東京あたりとは全然違うなと感じています。原子力や放射線について勉強され、基本的によく理解されていますね。

文部科学省の役割・仕事について教えてください。

一つは教育を担当すること。初等教育から高校、大学まで。さらに幼稚園や生涯学習など、とにかく人が学ぶことについて広く関わるのが仕事です。

また、科学技術の振興も役割となっており、研究開発の推進や、大学の先生や研究者の活動を支援しています。さらにスポーツや文化の振興なども文部科学省の大きな仕事ですね。

敦賀原子力事務所は、どんな仕事を。敦賀原子力事務所が一番重視しているのは、地元との良い関係をつくっていくことです。

原子力の研究開発は、地元の皆さんの理解を得て進めることが大前提です。そのため地元の県や市町村に国の考えをお伝えし、また地元の皆さんがどう考えているかを東京に伝えていきます。

### 広く利用されている原子力

原子力というと発電がイメージされますが、他の分野でも広く利用されていますね。

医療分野ではX線撮影、CTスキャ



ンなどが知られていますが、放射線の利用技術は随分進んでいます。

加速器という装置では、電子や陽子などの微粒子を加速して、新しい材料をつくったり、がんの治療なども行われています。

原子力は大変複雑な分野なので、研究開発は民間だけで進められる仕事でもないし、資金も時間もかかります。

そこで国の仕事としてきちんと研究開発を進めていくことは重要なことです。

当然、原子力の安全が重視されるなか、安全研究にも力を入れています。

文部科学省が所管する日本原子力研究開発機構は、日本唯一の総合的原子力研究機関として原子力安全、高速増殖炉、核融合、加速器など様々な研究開発も行っていますし、東京電力福島第一原子力発電所事故からの復旧・復興についての研究開発も担っています。

### 原子力は燃料が長持ち

原子力発電への声が厳しくなっていますが、日本が原子力開発を進めた背景は？

日本は島国で、天然資源がわずしかありません。そうは言っても文明社会を支えるにはエネルギーを確保することが必要です。石油も重要ですが、新しい、それも安定的な供給を考えていくべきということで原子力が注目されました。

火力発電所は原子力発電所なみの発電ができるとしても、継続的に燃料の

供給が必要です。石油・石炭は海外から船で運んできますが、それが断たれる可能性もあります。しかし、原子力ならば1年間くらいは燃料補給しなくても発電できますし、地球温暖化の原因と言われている二酸化炭素も発電時には排出しません。

### 燃料を何回も使う核燃料サイクル

原子力発電に関して核燃料サイクルという言葉聞きますが。

ウランには、燃えやすいウランと燃えにくいウランがあります。燃えやすいウランはウラン全体の0.7%しかなく、残りの99.3%は、そのままどうもく使えません。

原子炉のなかでは燃えにくいウランがプルトニウムという別のものになって、それが燃料として使えます。そこから、燃料を何回でも使っていくという発想が生まれた。簡単に言うと、これが核燃料サイクルの考え方です。

0.7%しか使えないと思っていたものが何十倍にも使えることになり、その核燃料サイクルの要が、青森県六ヶ所村の再処理施設と高速増殖炉の「もんじゅ」です。

核燃料サイクルに対する諸外国の立場は様々ですが、それらは各国のエネルギー事情を反映しているものだと思います。我が国は、国内資源に乏しいため、ウラン燃料を有効に利用できる核燃料サイクル技術の確立に長年努めてきました。

## 使った以上に燃料ができる

その高速増殖炉ですが。

高速増殖炉はウラン238を効率よくプルトニウムに変えて、使ったプルトニウム以上に新しいプルトニウムをつくる原子炉です。プルトニウムを1使って、核分裂によって発生する中性子によりプルトニウムが1・2くらいできる。使った以上のプルトニウムが出来るというわけです。

今の軽水炉でウランを使った場合には、100年くらいでなくなると言われていますが、高速増殖炉を実用化すれば、1000年以上の基幹エネルギーとして使えるようになります。

将来を見据えて長期的にエネルギーを確保するための新しい技術として、高速増殖炉を開発しているのです。

ただ、ナトリウムやプルトニウムを使うので、十分な安全研究、取り扱いの習熟が必要です。コスト面、経済性の改善も課題です。

研究は段階を踏んで行われます。「もんじゅ」の次には経済性を高めた実証炉が考えられています。

## 世界の高速増殖炉研究の状況は？

今、稼働しているのは西側諸国では日本だけです。フランスは、ある程度、研究して技術が確立し、次の新型炉を計画しています。アメリカも研究は続いています。

ロシアは原型炉よりも少し大きい炉を長い間動かして、運転経験は

# ここに住んで地元との良い関係を築いていきたいですね

豊富です。中国、インドも着実に開発を進めています。

## 原子力はきちんと議論する時期

脱原発の声も大きくなっていますが、高速増殖炉の研究はどうなるのでしょうか。

原子力の今後は、国レベルで議論をきちんとしていく時期でしょう。

何となく危ない、何となくお金がかかる。そういうのではなくて、辞めたらどうというデメリットがあるのか、継続する場合には安全性を保てるのか、費用は。いろいろな要素を考え、それぞれについて、きちんとデータを作る。それらのデータに基づいた議論をしているところです。

高速増殖炉を含む核燃料サイクルの議論は原子力委員会で行います。別のところでエネルギーの適切な組み合わせ（ベストミックス）や地球温暖化の議論などもされ、それらを元に今年の夏を一応のメドにエネルギー・環境会議で総合的な議論をしていくことで考えられています。

## 福島復興が大事

東京電力福島第一原子力発電所事故への文部科学省の対応は？

まず、周辺の放射性物質がどうなっているかを調べるモニタリングを行っています。それから、事故で被害を受けた皆さんに対する東京電力の賠償が進められるよう、指針の策定や紛争解決に取り組んでいます。

さらに、発電所から放出された放射性物質の量をどう減らすかという除染技術の開発や廃炉までの事故収束に必要な研究開発などを、日本原子力研究開発機構の人的資源、研究施設群を活用して実施しているところです。

こういった活動により、福島のいち早い復興にお役に立てればと思っています。「ふげん」で研究を進めているレーザーでの切断技術を、福島でも役立てたいと思います。

## 双方向のコミュニケーションを

ご自身の趣味を。

本を読むこと。歴史も好きなので、一乗谷はじめ歴史のある場所を見に行くのも好きですね。

この地方の印象は？

ここは海に近いので魚がおいしいですね。山に囲まれ海があって、自然豊かな場所だと思っています。東京の近くとは海のきれいさが違いますね。



「北陸技術交流テクノフェア」で開かれた「原子力フォーラム」のパネル討論にパネリストとして参加（昨年10月・県産業会館）

最後に読者に伝えたいことを。

この4月、敦賀に文部科学省の福井地方放射線モニタリング対策官が赴任しました。モニタリング自体は事業者や自治体の仕事ですが、より一層よく実施していくためにどうしたらいいかを、地元の方と連絡調整するのが仕事です。

私達は地元の皆さんが、どういう疑問を持ち、どういうところが気になっているのかを知り、それに答えていきたいと思っています。双方向のコミュニケーションをとっていくことが、ここに住んで仕事をしているという一つの意味だと思っています。

# 仏・印・中・韓の現状と計画

原子力機構敦賀本部は、日本原子力学会新型炉部会および福井大学附属国際原子力工学研究所と共同で3月8日、敦賀市の「きらめきみなと館」で「世界の高速炉開発」講演会を開催しました。

講演会では、福井大学附属国際原子力工学研究所望月弘保教授を座長に迎え、高速炉開発を進めているフランス・インド・中国・韓国の専門家から各国の高速炉開発の現状と今後の開発計画についてご講演いただくとともに、原子力機構FBRプラント工学研究センターの一宮正和センター長から、日本の高速炉開発についてご説明しました。

## フランスにおける高速炉開発

### 安全性に関する要求条件の達成は共通の目的

フランス原子力・代替エネルギー庁(CEA)J・ブシャール長官付顧問

ウランの価格低迷はいつまでも続くものではないことから、高速炉は依然として原子力発電を持続するために必要なものである。特に安全性に関する要求条件の達成は、共通の目的であるべきである。

既存の原子力発電所に比べて安全性・経済性・核拡散抵抗性



を高めた第4世代原子炉の開発を目指し、フランスと日本は、多国間での国際協力である第4世代原子力システム国際フォーラム(GIF)のナトリウム冷却高速炉(SFR)開発プログラムにおいて重要な役割を負っている。

2020年までに新型ナトリウム冷却高速炉のプロトタイプ

炉ASTRIDを建設する予定である。高速原型炉フェニックスの運転停止以降、「もんじゅ」は高速炉における唯一の研究用照射場としてその重要な役割を負うべきである。

## インドにおける高速炉計画の現状

### 高速増殖炉サイクルはエネルギー安全保障に必然の技術

インディラガンジー原子力研究センター(IGCAR)P・チェラパンディ原子力安全工學部長

インドでは、原子力発電設備容量を現在の478万kWから2020年までには2000万



kWに、2032年までには最大で4000万kWの軽水炉の輸入を含めて6300万kWにする予定している。2050年以降は、再生可能エネルギー、トリウムを基軸とした技術、核融合技術、経済的で持続可能な水素を基軸としたシステムなどの選択肢が台頭してくるかもしれないが、それまではインドにとって、高速増殖炉サイクルはエネルギー安全保障のために必然の技術である。

高速増殖炉は、廃棄物管理や環境への配慮の観点から、アクチノイドや長半減期の核分裂生成物を燃焼し、また、廃棄物からセシウムや白金等の有用な金属を抽出できるメリットがある。

インドの高速増殖炉計画は、高速増殖実験炉FBRの建設によって開始され、高速増

殖原型炉PFBRを現在建設中で2012年に運転開始し、2023年までにPFBRと同様の商業用高速増殖炉CFBR6基を運転開始する計画である。

## 中国における高速炉開発の紹介

### 高速実験炉、2012年末までに100%出力達成へ

中国原子能科学研究院(CIAE)徐銈 総工師

スケジュールの都合によりご講演いただけないことになりましたが、徐銈(シユウ・ミー)総工師から、次のメッセージをいただきました。

＊

中国高速実験炉CEFRは、2011年7月21日に40%出力において24時間の発電を達成し、現在、所定の手続きを完了させるために停止しているが、2012年末までに100%出力を達成することになっている。日本はエネルギー資源に乏しく、原子力のように大規模でクリーンなエネルギーはなく、原子力は唯一の解決方法である。さらにウラン資源は限られており、高速炉を開発するべきである。今後の原子力政策がキーポイントであると理解しており、

政策立案者に対して最大限の努力を払って説明することが重要である。

## 韓国における高速炉 技術開発の状況

## 2028年、高速原型炉 の建設を計画している

韓国原子力研究所（KAER）  
I・D・ハーン副理事長

韓国では電力需要が急速に増加しており、国内のエネルギー資源や近い将来における再生可能エネルギーの可能性が限られていることから、電力の安定供給を確保するため、クリーンかつ経済的で持続可能性をもって発電できる原子力の役割が重要性を増している。

高速炉を必要とする理由は、

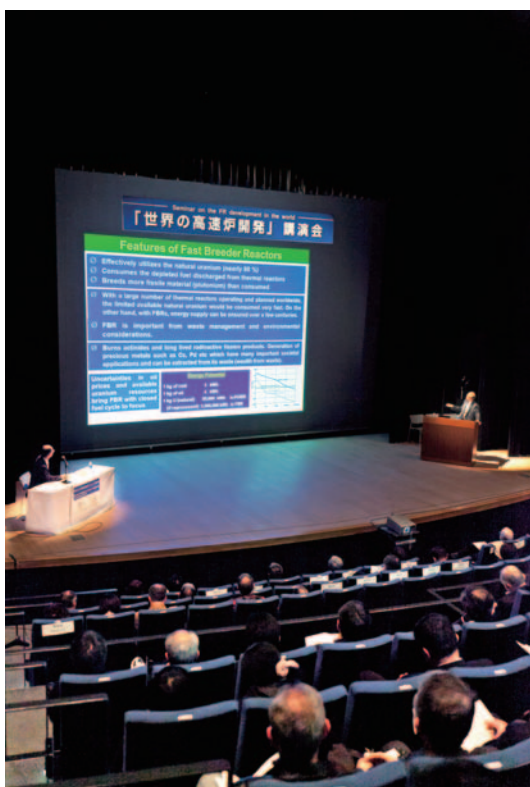


使用済燃料の処分量及び放射性有害度の低減、ウラン資源の効率的な利用である。高速原型炉は2028年に建設することを

## 日本における高速炉開発

原子力機構 一宮正和FBR  
プラント工学研究センター長

高速増殖炉技術は、発電しながらプルトニウムを増殖する技術であり、限りある輸入ウラン



計画している。ナトリウム特性や取扱技術習得のため、2月にナトリウム試験ループ「STERLING-1」を製作した。

「もんじゅ」の設計・建設・運転の経験は、実験データによる安全解析コードの検証やナトリウム中での観測技術の開発等において、韓国におけるナトリウム冷却高速炉（SFR）技術開発のために重要な役割を果たすものである。

資源に頼ることなく、国内産のエネルギー資源を数世紀以上にわたって確保できることから、長期的かつ継続的なエネルギーの安定供給が可能で、資源小国の日本にとって国益となる必須の技術である。



「もんじゅ」においてこれまでに得られた成果としては、「炉心確認試験」のデータによってFBR実用化に向けて整備してきた炉心解析コードの精度が目標以内にあることの確認、世界初となった炉上部プレナム内の温度成層化データ取得が挙げられる。

2009年にフェニックスが

停止し、残された西欧諸国の唯一の原型炉である「もんじゅ」への期待は大きく、高速炉用燃料・材料の照射データを得るための「照射試験の場」として、そして、高速炉技術者、研究者の技術レベルの向上に必要な「教育訓練の場」として世界に貢献することができる。

## ■総合質疑応答■

## ナトリウム施設を安全 に建設できることを確信

来場者からは「原子炉の冷却材にナトリウムを用いる利点や、水との反応等の課題について」質問があり、講演者からは「世界の主要な高速炉の経験はナトリウムに関するもので、

我々はナトリウムの課題とリスクの限界を知っているが、それを上回る優位性がある。ナトリウム施設を安全に建設できることを確信している」との回答がなされました。



総合質疑応答

## ■閉会挨拶■

山口彰 日本原子力学会新  
型炉部会副部会長

本講演会を踏まえた意見として、主に次のように総括されました。

・高速炉は第4世代炉としての至高の安全性を具備すべきである。

・「もんじゅ」の運転によ

り得られる経験と知見は、我が国のエネルギー安定供給の確固たる基盤を築くものであると評価する。世界のエネルギー開発のための公共財として有効かつ着実に利用することが国益であり国際貢献である。

・「もんじゅ」は、その実用化に直結する技術課題をつまびらかにし解決の指針を与えるという重要な役割を担うべきである。

# ロシア(ソ連)敦賀領事館

敦賀半島  
ふるさと  
紀行

敦賀港が近代、大陸との交易でにぎわったころ、敦賀にはロシア領事館が置かれていました。ロシア革命後はソ連の領事館となりましたが、太平洋戦争中に閉鎖されました。

## ■拡大する敦賀の外国貿易

領事館とは、領事が条約国の駐在地で職務をする官庁のことです。領事の業務は自国の通商の保護・促進と在留自国民を保護することです。

明治15年、敦賀港では日本海側最初の鉄道が開通し、港勢は一気に拡大しました。さらに明治32年には外国貿易港（開港場）に指定されました。

明治35年には（国の補助金拠出を受けた）命令航路として、

手前がロシア領事館が入っていた金ヶ崎棧橋の義勇艦隊敦賀支店（大正時代・絵ハガキの一部）＝敦賀市立博物館蔵

大陸と日本の港をつなぐ定期航路が運航を開始。敦賀はその中心港となりウラジオストクとの直通航路が設けられました。

これを受け、ロシアは明治39年、シベリア鉄道を開放するとともに敦賀・ウラジオストク（敦浦）間航路の充実を促進。

日本側も新造優秀船の就航などに努めました。この敦浦間航路とシベリア鉄道を乗り継ぐことで、東京・ロンドン間の所要日数は17日と、インド洋・スエズ運河経由の3分の1になり、旅客運賃も半減しました。

こうしたなか、日露ともに一層の円滑な交流を促進拡大するため、敦賀でのロシア領事館開設が考えられ始めました。

## ■領事館開設へ誘致運動

敦賀港の飛躍を願う市民は山本伝兵衛町長や大和田莊七氏を先頭に領事館の誘致運動を開始。明治39年3月、敦賀町議会は領事館の誘致を決議し、町長の具申書を西園寺公望外務大臣に提出するとともに、ロシアの汽船会社「義勇艦隊」の敦賀支店長と連携してロシア本国への働きかけを行いました。

運動は奏功し、ロシア領事館の開庁が明治43年2月に決定。初代領事には「義勇艦隊」のフェドロフ敦賀支店長が名誉領事として就任。支店内に事務室を設けました。大正2年に支店の建物が金ヶ崎棧橋に竣工すると領事館も移転しました。

ところが、このころロシアでは内戦が起き、領事館は大正3年、わずか5年間で閉鎖されました。

## ■ロシア革命後はソ連領事館に

ロシアでは大正6年、ロマノフ王朝が崩壊。大正11年12月にソ連の成立が宣言されました。日ソ両国は大正14年1月、日ソ基本条約を締結し外交関係を確立。7月には閉鎖中のロシア領事館をソ連領事館として再開することになりました。しかし、「義勇艦隊」が支店を売却して

いたため、新領事が着任したものの領事館の庁舎がない状態でした。発足間もないソ連政府には領事館を新築する財政的余裕がなく、蓬萊町の個人邸の一部を借用し、大正15年1月、ようやく開庁に漕ぎ着けました。

こうした事情に敦賀町議会は、敦賀町が領事館庁舎と別館を新築し、ソ連側に賃貸することを決めました。敷地は松栄・川崎の県有砂浜（松栄海岸）200坪を町が借用。庁舎は木造二階建て、建坪約58坪。大正15年10月、移転・開館しました。

## ■金ヶ崎隧道西口に新築

その後、昭和7年2月、激しい波で領事館の土台の一部が崩れたため天満町の民家に移転。新庁舎を昭和7年11月、国道12号（旧国道8号）の金ヶ崎隧道西口に完成し開館しました（町が庁舎を建設、敷地とともに貸与）。ここは高台で敦賀港が一望でき、当時の世相から防諜上好ましい場所ではありませんでした。

## ■さらに北津内に移転

ところで昭和12年は金崎宮祭神の六百年祭に当たり、領事館の敷地は記念事業の整備計画のエリアに入っていました。また、庁舎の一部が国道12号の改修計画の区域に入るので移転する必要がありました。

敦賀市（昭和12年市制施行）



は在京ソ連大使に、替え地を提供し市費で建築物を移転する旨を条件に、現在地からの移転を交渉し、移転が決定。移転工事の仮庁舎として市は大和田莊七氏別邸を買収し、昭和17年度中に移りました。

替え地には北津内通りの県立敦賀高等女学校前（現本町2丁目）に敷地約254坪を借用。昭和18年10月に移転しました。

## ■戦火拡大で閉鎖へ

このころ、昭和16年6月に欧州では独ソ戦が始まって、欧亜国際連絡運輸が途絶。さらに10月には欧亜国際連絡敦浦間航路の運航も中止され、12月8日には太平洋戦争が始まりました。こうしてソ連領事館本来の業務は次第に減少し、昭和19年6月15日、領事館は閉鎖されました。

※参考＝井上脩氏「駐日ロシア（ソ連）敦賀領事館の概要」（日本海地誌調査研究会「会誌」所収）

金ヶ崎隧道西口から北津内に移築後のソ連領事館（写真は戦後、敦賀商工会議所として使用された当時のもの）＝敦賀市提供



大正15年、松栄海岸に新築されたソ連領事館＝「写真集 国鉄・敦賀」より

## 原子力機構の研究開発で生まれた 技術成果や産業への応用例を紹介

### 「第25回オープンセミナー」敦賀と福井で

敦賀本部では、原子力機構の研究開発で生み出された技術成果を紹介し、地域企業の新製品や新技術の開発に役立てていただくことや、原子力分野へ幅広く参入していただくことを目的とした「第25回オープンセミナー」を開催しました。3月8日に敦賀商工会議所で、3月9日は福

井商工会議所で実施し、両日合わせて34社40名の方にご参加いただきました。

当日は、「イオンビームを用いた産業微生物の改良の研究紹介」や「レーザーの産業利用紹介」といった実際に産業へ応用している事例を紹介しました。

今後も地域産業界との共生を育み、技術交流や技術相談、技術成果の展開などの取り組みを積極的に進めてまいります。

### 原子力機構の特許を 活用した製品を展示

#### 「つるが環境フェア」で

2月25・26日、敦賀市の「きらめきみなと館」で開催された「つるが環境フェア」に出展しました。

ブースでは、原子力機構が保有する特許等を応用し、地域企業の新商品開発を行った事例として、「高機能消臭和紙」や「チタン粉末を基材にした新刃物」などを紹介しました。今後も積極的に地域イベントに参加し、原子力機構の技術や研究開発で得られた成果・特許などを幅広く



敦賀本部レーザー共同研究所の鈴木庸氏技術主幹が最新のレーザー加工技術について産業への応用例を説明（敦賀商工会議所で）



新商品開発までの流れを説明（「つるが環境フェア」で）

紹介してまいります。

### アクアトム閉館のお知らせ

平成13年6月の開館以来、10年余にわたり皆様に親しまれてまいりました、海とエネルギーをテーマにした科学館「アクアトム」は、平成24年1月18日に受けた民主党行政改革調査会からの指摘と文部科学省からの指導を踏まえ、平成24年3月末日をもちまして閉館いたしました。

閉館後は、今後の施設の有効活用を検討するとともに、当面の間「ギャラリー」部分につきまして、市民の皆様にご利用いただく予定です。

**発行所** 日本原子力研究開発機構  
敦賀本部Ⅱ敦賀市木崎65号20番／☎  
0770（23）3021／ホームページ  
http://www.jaea.go.jp/  
（平成24年5月発行）

### ギャラリー案内

（敦賀市神楽町2丁目2番4号Ⅱ旧アクアトム）

▽平成24年度歯科衛生に関する図画・ポスター作品展  
……5月23日（水）～5月27日（日）

▽第26回回作品展  
……6月6日（水）～6月10日（日）

▽船の模型展  
……6月13日（水）～6月24日（日）

▽幾何学キネマ～A second step～  
……6月28日（木）～7月7日（土）

なお、5月21日から、開館時間については午前10時～午後4時30分に、休館日については月曜・火曜・祝日、及び年末年始に変更いたします。

また、展示物撤去工事のため、5月28日（月）から6月5日（火）までと、7月23日（月）から9月下旬までの期間は休館いたします。

そのほか、機器の点検・調査のため、臨時に休館させていただくことがありますのでご了承ください。

長らくご愛顧いただきまして、ありがとうございます。

# 楽しくお稽古仲間づくり

## 東地区大正琴グループ

大正琴は大正時代に名古屋が発祥の地で、今年は百周年に当たります。美浜町東地区を中心に活動している「東地区大正琴グループ」の皆さんも技術の向上に余念がありません。

美浜町内に佐田、菅浜、太田の3教室があり、敦賀市内にも教室があります。それぞれ近くの公共施設などに集まり、月に2回、稽古を続けています。メンバーは4教室で総勢、女性24人。皆さん、孫がいる世代で、「仕事にあくせくせず、心にもゆとりがあつて楽しめる」人達の集まりだそうです。

グループができたのは平成16年。一緒に大正琴をやりたいという仲間が集まって結成したそうです。発表会で大正琴を聞き、「私も弾いてみたい」という人達が入会し、次第に仲間が増えてきました。

大正琴は、木製の胴に金属弦を張り、鍵盤を付けた弦楽器。鍵盤を左指で押さえて右手のピックで弾いて演奏します。数字を使った楽譜を使うので取り組みやすく、両手を使うので右脳の刺激にも良いそうです。

グループでは、初心者も童謡や「さくらさくら」「荒城の月」など、ゆっくりに易しい曲から入り、熟練者は伝統の邦楽など難しい曲にも挑戦しています。発表会では全員同じ曲を演奏

しますが、熟練者は合奏のアルトを担当しています。10曲ほどはいつでも弾けるとのこと。

練習の成果は毎年、町の文化祭などで発表するほか、県の選抜芸能祭に参加したこともあります。普段は福祉施

舞台衣装は自分たちで作りました

設、老人クラブの集いや敬老会などに  
出向いています。

発表会が近づくにつれて練習回数も増え、  
日頃にも増して熱が入ります。初心者も  
お手本の録音テープが切れるくらい頑  
張って練習するそうです。

大正琴を弾いて良かったことを皆  
さんに聞いてみました。

「雪の日に、こたつに入って大正  
琴を弾いて過ごしました。外出でき  
ない時でも一人で楽しめて大正琴を  
弾いて良かったなと思いました」

「新しい曲を稽古することで新し  
い歌も覚え、伴奏しながら自分で歌  
うこともできるようになって…」

「仕事をしながら大正琴の資格を  
取りました。取って良かったと思っ  
ています」

「難しい曲を弾けるようになると  
達成感も大きい」

「何といっても共通の趣味を通じ  
た仲間づくりができることが魅力  
で、教室へ来て笑いながら練習でき  
ることがすごく楽しい」

指導にあたって原智津栄さんは  
「何ごとにもしろ高齢者は余り上達しな  
いと見られていますが、大正琴は違  
います。練習によって、驚くくらい上達  
しますよ」と言います。また、「稽古  
ごとは発表の場があることで上達しま  
すし、ステージは一番輝け  
る場で、若さを保つ秘けつ  
です。声がかかれば、どこ  
へでも演奏に行きますよ」  
と話しています。

## 趣味と サークル

## 高浜虚子句碑（気比松原）



像と  
碑  
ぞうといしふみ

高浜虚子（明治7年〜昭和34年）は愛媛県松山市出身の俳人・小説家で、同郷の正岡子規に師事した。「ホトトギス」を主宰。「客観写生」「花鳥諷詠」を提唱した。敦賀へは昭和32年10月4日に来訪。地元俳人らの案内で、気比神宮、金前寺、武田耕雲斎等墓、気比の松原に遊び、翌5日は常宮神社、色ヶ浜を周遊して松尾芭蕉の「おくの細道」の昔をしのんだ。

これを記念し虚子真筆による句碑を建立したが、風化損傷が著しく、俳誌「ホトトギス」千号を機に昭和55年10月、再建された。虚子の生地伊予青石を使っている。碑に刻まれた句は、

松原の続くかぎりの秋の晴  
虚子の句はこのほか、  
萩やさし敦賀言葉は京に似て  
秋風にもし色あらば色の濱

（参考）「俳句の里つるが」「続郷土の碑文展」